

同窓生 シリーズ

63



24回生
龍岡友子
たつおかともこ

◆プロフィール

昭和47年新宿高校
卒(24回)
東京女子大学卒業後
第一勧業銀行入行、
現みずほコーポレ
ート銀行調査企画部門
にて現役継続中
平成15年から朝陽
同窓会の副会長職

今だからこそ、伝えたい。少し私的なお話をさせていただきます。

私は、小さい頃からインターハイで優勝した父親の影響でバスケットボールにそこがれていました。でも、中学時代の私は、とてもバスケットボールをやる体力はなく、通学するのが精一杯だったのです。で、高校に入ったラスケットボール部に入ろう!と秘かに決めていました。

新宿高校に入って、少シタテヨコに大きくなった私は喜び勇んで、バスケットボール部に入部。しかし、戦いを免れた府立6中時代からの校舎と体育館の傷み具合には驚きました。なんと、体育館には、窓ガラスがなく、床はデコボコでツギハギだらけでした。

ここでバスケットをやるとなると、ボールよりも床を見て走らないとつまずいてしまいます。ドリブルしてもボールは弾まず、ボールがツギハギにあたると、とんでもないところに飛んでいってしまうし、仲間がジャンプして着地後、床を踏み抜いて視界から消えてびっくりしたこともあったのです!!

夏の合宿も、今考えるとひどいものでした。合宿先では、地元の高校の体育館を借りして練習するため、早朝練習や暑い真昼間の練習と、待ち時間にはなぜか無理やりの昼寝。こんな合宿なのに、卒業されたOB、OG

の方々が、部員以上に参加してくださって、ひどい体育館で満足な練習ができなかった私たちにとって、初めてバスケットボールらしい練習ができたのです。

体力的にも技術的にもとてもついていけない、ポロポロクタクタの合宿でしたが、「辛くてやめたら、そこまで。そこからがんばれば、その先が自分のものになる。」と先輩に言われ、これでやめてしまうのは、もったいないなんてみんまで言い合っていました。

こんな体育館も1年の夏まででお別れ、2学期からは、新しい体育館(現在は解体されて「旧」ですが)で練習することができました。このときの嬉しかったこと。やっと、思いつきり、走ったり飛んだりできたのですから。

と言っても、私は、しょっちゅう、貧血を起こして床で横になっていました。病院で検査したら、鉄分が不足していると言われ、薬を飲みながら、毎日レバーを食べて何とか続けられました。でもこんな思いをしながらも、続けてよかったと思う今日この頃です。

バスケットボールのおかげで、心身ともに鍛えられ、身体的にも精神的にも、余裕ができたような気がします。そして、いろいろなことを学びました。状況判断、常に相手の立場になって考え行動すること、チームワークの大切さ、自分の役割などを身につけること

ができたのではないかと思います。そして、なんと言っても、素晴らしい仲間と出会えたことがかけがえのない財産です。今も仲間には、卒業して何年たっても、歳月を飛び越え、一瞬のうちに忘れていたいろいろな場面が蘇ってきます。そして、いつのまにか、あの頃の自分たちに戻ることができません。何事にも縛られず、自分の考えで、自分の責任で、何かに打ち込めるのは、人生のなかでそうそう機会のあるものではないと思います。

もうひとつ、新宿高校は元男子校だったので、私の頃は男子対女子の人数が3対1でした。女子が少ないせいもあるのですが、男子がみんなとにかくやさしい人たちでした。卒業後の付き合いも男女分けへだてなく、やさしく思いやりのあるメンバーで年末恒例の忘年会が30年余すうつと続いています。ただ集まって、みんなの顔を見るだけでほっとしたり、顔を出さない人がいるとなんとなく心配したりと。会えただけで、無条件でうれしいのです。何を話すわけでもなく、同じ場にいるだけで、良い1年だったと思える。同じ高校で、同じ時を一緒に過ごした仲間というだけで、現在朝陽同窓会の副会長として毎回役員会と総会に出させていたれています。役員となりたいきさは、恩師の佐藤先生のご推薦でした。

同窓会に出席される諸先輩は、年は召されてるものの未だ衰えることのない「愛校心」と「伝統を守る」エネルギーに満ちています。20歳代や30歳代他の卒業生の方々も、朝陽会へぜひ参加していただき、諸先輩との絆を是非とも感じていただきたいと思えます。